

カヤバNEWS

油圧機器の油状態診断システムを開発

カヤバは、建設機械や工場設備などの油圧機器の作動油状態をリアルタイムに診断するシステムを開発しました。これにより、作動油の廃棄量低減で環境にやさしく、メンテナンス作業の効率化が図れるようになります。

現状、油圧機器の作動油は、まだ使用できる状態であったとしても、不具合発生による停止を避けるべく定期交換するのが一般的です。新たに開発した油状態診断システムは、センサ、通信機を取り付けた油圧機器とお客様とをクラウドで結び、当社が蓄積してきた知見やノウハウを活かしたアルゴリズムで油のデータを分析・診断します。IoT(Internet of Things:モノのインターネット)により、油や機器の劣化異常がないか推定し、適切なタイミングで保守・交換のご提案をすることが可能となります。

2026年の診断サービス開始を目指し、建設機械や工場設備で更なる確認を進めており、確認結果を反映した改良や油のデータを増やすことで、診断精度を高めています。また、サービスの提供方法につきましても併せて検討しております。

当社は今後も油圧技術の強みを活かし、お客様の新たな”うれしさ”を開発・提案してまいります。



【関連情報】

カヤバ技報第60号

https://www.kyb.co.jp/technical_report/data/no60j/06_technology_explanation.pdf

【本件に関するお問い合わせ先】

ハイドロリックコンポーネンツ事業本部 技術統轄部 システム技術部 TEL 042-746-5617

以上